

高すぎる保険料を下げよ！後期高齢者医療は廃止せよ！

～不服審査請求の集団提出行動を行いました。

9月8日、県社保協は介護保険、後期高齢者医療保険、国民健康保険の不服審査請求の集団提出行動を行いました。県庁会議室に支援者も含めて33人が集まり、冒頭、代表幹事の中谷さんが要請書を読み上げ、県知事あてに集められた署名簿（団体203、個人2、542筆）を提出しました。その後、参加者はそれぞれ、思いをぶつけながら審査請求書を提出しました。この日提出した請求書は、介護保険が59人分、後期高齢者医療が16人分、国保が8人分（他に、岩出市1、田辺市2）でした。

**◎県庁前交差点でスタンディング行動**

不服審査請求の提出に先立ち、県庁前交差点でスタンディングによるアピール行動を実施しました。40人を越える方々が集まりました。県地評の武田議長、年金者組合の深谷委員長、民医連の深谷事務局長が発言。「大軍拡をやめ、社会保障の拡充を」「経済マクロスライドをやめ、物価高騰にみあう年金の引き上げを」「75歳以上の医療費窓口2割負担の中止を」などと訴えました。

◎後期高齢者医療保険料の引き下げを ～後期高齢者医療広域連合に要請

不服審査請求を提出したあと、後期高齢者医療広域連合に対して陳情を行いました。13人が参加。年金者組合の深谷委員長が要請書を読み上げ、広域連合長あての署名簿（団体193 個人2、628）を提出しました。保険料を引き下げを求めたのに対して広域連合は、令和4年度の以降の医療費が増えていること、全世代型社会保障改革をあげて高齢者世帯の負担割合が増えることを正当化しました。参加者からは「高齢になれば病がちになるのはあたりまえ。個人責任を言って高齢者に負担をかぶせる考え方は間違っている。」「若い人達は非正規の職しか無く保険料も払えない。国の施策の失敗です。高齢者に責任はない。」と訴えました。



聴力検査の実施を求めたのに対して、広域連合が耳鼻科を受診して下さいと発言。「田舎では耳鼻科が近くにない。かかれない。」と参加者から実情が訴えられました。健康保険証を残すよう政府に働き変えるように訴えたのに対して、広域連合はメリット論を言いつのって国の代弁者のような姿勢でした。広域連合には、署名簿に込められた思いを受け止め、被保険者の側に立って行政をすすめるよう求めました。（★短期保険証の発行数 6月1日現在 204件(昨年同時期 217件) ★差し押さえ件数 令和4年度 94件 607万9千円(令和3年度 69件 460万8千円)